

飛蚊症

視野に黒い点や糸くずのような浮遊物

視野に黒い虫、糸くず、ススなどに似た浮遊物が見えることはありませんか？目をこすっても消えず、視線の動きに合わせず追いかけてきます。これが飛蚊症です。大半は目の硝子体の老化による生理的なもので心配ありませんが、ときに危ない目の病気が隠れていることがあります。視野の浮遊物に気づいたら、早めに眼科で診てもらいましょう。



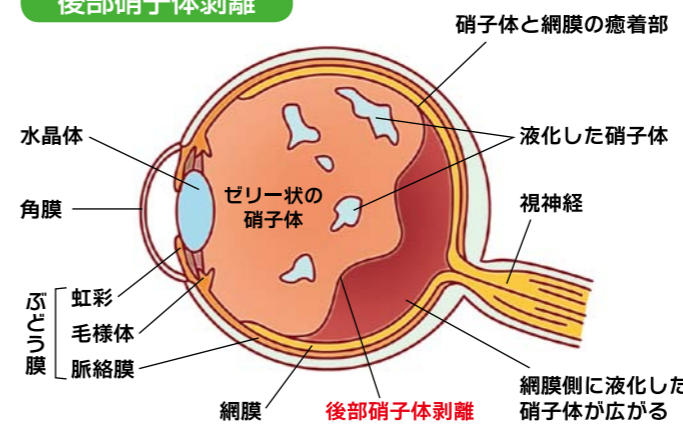
硝子体のにごりが網膜に映ったもの

視野の中に漂う黒ゴマのような点、蚊のような虫、糸くずやススのようなもの、白っぽいリング等、気になりますよね。これは飛蚊症の症状で、見えるものは、人によってさまざまです。この浮遊物は、いったい何でしょうか？これらは私たちが実際に角膜と水晶体を通して見ているものではなく、眼球内部のにごりの影なのです。眼球の大部分を占めている硝子体は、

透明で均一なゼリー状の組織で、眼球の形と弾力性を保つとともに、外から入ってきた光が網膜で像を結ぶまでの通り道となっています。この硝子体が、加齢とともにゼリー状から水っぽいものに変化し（液化）、透明だった内部ににごりを生じることがあります。このにごりが網膜に投影されて、あたかも目の前にあるかのようにさまざまな形の浮遊物として見えるのです。

一度は眼科で調べてもらいましょう。
●**網膜裂孔** 後部硝子体剥離が起こる際に、硝子体と網膜の癒着部が、萎縮する硝子体に強く引っ張られると、網膜が裂けて孔があくことがあります。この場合は、レーザー治療で網膜剥離への進行を予防することができます。
●**網膜剥離** 網膜裂孔を放置すると、裂孔部から液状になった硝子体が網膜の後ろに入り込み、網膜が眼底から剥がれてしまうことがあります。剥がれた部分の細胞などが眼球内を浮遊したり、網膜剥離で起きる硝子体出血によって飛蚊症が起こります。

後部硝子体剥離



後部硝子体剥離は加齢現象の一種ですが、まれに網膜裂孔や網膜剥離の原因になることがあります

監修



西葛西・井上眼科病院副院長
井上 順治 先生
(いのうえ・じゅんじ)

●略歴
2001年、順天堂大学医学部卒業。順天堂大学医学部附属浦安病院を経て、2012年西葛西・井上眼科病院入局。2014年、同院副院長。日本眼科学会専門医。

方に（水晶体側に）萎縮し、後方が網膜から剥がれることがあります。これが後部硝子体剥離で、50歳を過ぎる頃から起きてくる生理的な加齢現象です。この剥がれた硝子体の影が網膜に映り、飛蚊症が起こることがあります。また、硝子体出血といって、網膜から剥がれるときに起きる出血が浮遊物として見える場合もあります。若くても、強度近視の人は眼球が大きく（角膜から網膜までの距離が長く）なることで、網膜が引っ張られて薄くなりやすく、硝子体が剥がれて飛蚊症が起こることがあります。

このような生理的な原因で起きる飛蚊症は心配なものではなく、治療の必要もありません。浮遊物が完全になくなることはありませんが、しだいに気にならなくなるのがふつうです。



網膜裂孔、網膜剥離など危ない目の病気に注意

一方、次のような重篤な目の病気の症状として飛蚊症が現れることがありますので、浮遊物が見えたら、早めに

ぶどう膜炎 ぶどう膜炎は、眼球全体を包み込むようにおこっている脈絡膜および毛様体、虹彩の総称で、ここに炎症が起きたものです。自己免疫疾患や、全身のさまざまな病気、細菌やウ

イルスの侵入などで起こりますが、原因不明のものも少なくありません。硝子体がにごって飛蚊症が現れるほか、かすみ目、まぶしさ、視力低下、目の痛みなどの症状がみられます。白内障や緑内障、網膜剥離などの合併症の頻度が高いことも知られています。
●**その他の硝子体出血**
糖尿病網膜症や、高血圧で頻度の高い網膜中心静脈閉塞症などでも起こります。いずれも網膜の細い血管が動脈硬化のために障害されることが原因です。また、外傷、くも膜下出血などでも硝子体出血することがあります。



まずは眼科で検査してもらうことが第一。心配のない飛蚊症なら、しだいに気にならなくなるでしょう